

第 8 6 回

2015 2/27 金 18:00-19:00

ゲノム編集技術の最前線: CRISPRによる ヒト疾患モデル動物の開発

未 来

大阪大学医学部講義棟 C講堂

医 療

主催：未来医療交流会

共催：文部科学省橋渡し研究加速ネットワークプログラム
大阪大学「TR実践のための戦略的高機能拠点整備」
大阪大学大学院医学系研究科

後援：厚生労働省早期・探索的臨床試験拠点整備事業
大阪大学医学部附属病院未来医療センター
大阪大学臨床医工学融合研究教育センター

セ ミ ナ ー



真下 知士

京都大学大学院
医学研究科附属動物実験施設
特任准教授

近年、ZFN、TALEN、CRISPRといったゲノム編集技術の登場により、簡単、短期間、低コストで遺伝子改変動物が作製できるようになった。これら人工ヌクレアーゼは、受精卵にインジェクションするだけで自由に遺伝子改変動物を作製できるため、ES細胞が利用できなかったマウス以外の実験動物でも、遺伝子改変が可能である。また、マウスでも従来のES細胞よりも非常に簡便なため、ゲノム編集技術が広く利用されている。本セミナーでは、このゲノム編集技術に関する最先端の知見と、ゲノム編集技術により開発したさまざまな疾患モデル動物、特にヒト化動物について、ご紹介したい。